

菊陽町



菊陽の「キ」を図案化し、平和の鳥とのびゆく町を表現したもの(昭和61年制定)。



町花 菊

キク科の多年草。秋に美しい花をつけ香りが高く、種類も多く、高貴な花として、日本では古くから鑑賞用として愛されています。菊の雫を飲めば長寿を保つといわれ、昔、菊の花を酒に浸して延命長寿の妙薬を作ったといいます。菊陽の菊を意味し、町花としてふさわしい花です。



町木 杉

約400年の歴史をもつ杉並木は、東西12キロにわたって続き、車窓からの眺めは素晴らしく、遠く阿蘇の山脈が、樹間から望めます。大地にしっかりと根を張り、天に向かって伸びている姿は、菊陽町の将来を象徴しています。



町の鳥 ひばり

鳥類ヒバリ科。日本各地の畑地、草原などに多く、空中高くのぼってさえずり、鳴声がよいのでよく飼われています。高空をさえずりながら飛ぶ習性は、未来に羽ばたく菊陽町の姿を象徴しています。

屋久島町



屋久島の「Y」をモチーフにし、緑の大地・宮之浦岳を緑で表現、これを包み込んだ紺が太平洋を表現し、海に浮かぶ屋久島をイメージしている。豊かな自然に包まれた人々が、悠久の自然や歴史、文化を大切に融合し、未来へと飛躍する様を象徴している(平成19年10月1日制定)。



町花 ヤクシマシャクナゲ

5月から6月にかけて淡いピンク色の美しい花を咲かせ、屋久島の山々を鮮やかにしておいます。高さ2〜3メートルで、葉の裏側は綿毛におおわれ、花びらは5枚あります。



町木 屋久杉

屋久島の標高1,000メートル以上に自生し、特に推定樹齢千年以上の杉を屋久杉と呼びます。樹脂を多く含み朽ち難く、その美しい木目から世界の銘木として珍重されています。



町鳥 ヤクコマドリ

コマドリの亜種で、スズメ目ツグミ科に属し、背から尾が暗赤褐色、胸が赤褐色でふちに黒帯があり、腹部が白の鳥です。鳴き声がヒンカラカラと馬の鳴き声に似ているということからコマ(駒)ドリと名が付いたと言われています。

町民憲章 平成元年11月1日制定

私たち菊陽町民は、郷土の繁栄を願い、住みよい町をつくるため力を合わせることを誓って、この憲章を定めます。

1. さわやかなあいさつで、心のふれあう町をつくります。
1. たくましい青少年を育て、未来を拓く町をつくります。
1. 健康で、思いやりのある家庭を築き、安全な町をつくります。
1. 仕事に励み、活力ある町をつくります。
1. 伝統を重んじ、緑豊かな、文化の薫る町をつくります。

町民歌

伸びる菊陽

作詞作曲：吉川幸義 編曲：岩代浩一

- (1) 新生都市の朝ぼらけ
今ぞ菊陽舞い昇る
進む時代に歩調を合わせ
拓く希望のパラダイス
- (2) 九州一と誇りもつ
高遊原の大空港
光る銀翼未来の夢を
乗せて世界を翔けめぐる
- (3) 日本の象徴白菊の
永久の薫りの気高さよ
招く文化の工場の群も
歴史を彩る杉並木
- (4) 流れも清き白川の
水も豊かな大耕野
阿蘇の情熱たたえてここに
伸びる菊陽栄えあれ

屋久島憲章 平成19年10月1日決議

前文

地球と人類の宝物である屋久島。この島は、周囲132キロ、面積503平方キロの日本で5番目に大きい島である。屋久杉を象徴とする森厳な大自然に抱かれ、神々に頭をたれ、流れに身を任せ大海の恵みに日々を委ねて人々が生きた島。この島は、はるかな昔から人々の魂を揺さぶりつづけ、近世森林の保全と活用で人々が苦しみ葛藤した島である。そして今、物質文明の荒波をようように免れた屋久島は、その存在そのものが人間に対する啓示であり、地球的テーマそのものである。この島に住む私たちは、この屋久島の価値と役割を正しくとらえ、自らの信念と生きざまによって、この島の自然と歴史に

条文

1. わたくしたちは、島づくりの指標として、いつでもどこでもおいしい水が飲め、人々が感動を得られるような、水環境の保全と創造につとめ、そのことによって屋久島の価値を問いつづけます。
2. わたくしたちは、自然とのかかわりかたを身につけた子どもたちが、夢と希望を抱き世界の子どもたちにとって憧れであるような豊かな地域社会をつくります。
3. わたくしたちは、歴史と伝統を大切にし、自然資源と環境の恵みを活かし、その価値を損なうことのない、永続できる島づくりを進めます。
4. わたくしたちは、自然と人間が共生する豊かで個性的な情報を提供し、全世界の人々と交流を深めます。

立脚した確かな歩を始める。そのため、この島の自然と環境を私たちの基本的資産として、この資産の価値を高めながら、うまく活用して生活の総合的な活動の範囲を拡大し、水準を引き上げていくことを原則としたい。この原則は、行政機関はもちろん、屋久島に係わる全ての人々が守るべき原則でありたい。国の自然遺産への登録も、鹿児島県の環境文化村構想も、この原則を尊重し、理想へ向けて、その水準を高く100年の計を誤らず推進されることを願うものであり、これを契機として、次のことを目標とし、ここに屋久島憲章を定めます。

町民歌

屋久島町 町民歌

作詞：竹中浩昭 作曲編曲：新田祐樹

- (1) 仰ぐ八重岳朝日を浴びて
今日も見守る緑の島を
幾千年の歳月を重ねて
屋久杉の森いま何を想う
世界遺産の誇りを胸に
のびやかに生きる屋久島町
- (2) 揺れる石楠花遊ぶ屋久鹿
浜に海亀いのちの島よ
明日の希望に心ふるわす
子供らの目にいま何を映す
ここがふるさと愛する島で
たくましく生きる屋久島町
- (3) 躍る黒潮トビウオ跳ねて
夢のしづきのうずまく島よ
口永良部には湯けむり香り
満天の星いま誰を照らす
笑顔つないで文化つないで
かがやいて生きる屋久島町